

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
桑名地区

平成29年2月

三重県桑名市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	自主防災組織の結成率	%	58	65	65	確定 見込み	● ○	あり なし	● ●	63	H28年10月	△	<p>新たに自主防災組織を結成する自治会が少なかった。</p> <p>■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	<p>自主防災組織の結成率は、地区毎で差があるが、概ね目標値に近づいている。災害に強いまちづくりを促進する上で、自主防災組織は地域住民の防災に対する意識の向上に大きく貢献している。</p>
指標2	避難所への避難時間(徒歩)	分	40	9	8	確定 見込み	● ○	あり なし	● ●	—	H 年月	—	<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	<p>洪水氾濫地区であるが、近隣に避難場所がない太平町、立田町に、一時避難所水防活動拠点として「城南地区河川防災ステーション・桑名市城南河川防災センター」が完成したことで、周辺住民の避難時間が大幅に短縮され、地域の防災安全性に大きく貢献している。</p>
指標3	災害対策本部へのアクセス時間(自動車)	分	10	8	8	確定 見込み	● ○	あり なし	● ●	—	H 年月	—	<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	<p>緊急輸送路である国道23号線が、構造的に地域の分断要素となっていたが、(都)江場安永線の整備による国道23号交差点の改良により、小貝須東部地区から災害対策本部(桑名市役所)への最短経路が確保され、アクセス時間の短縮に大きく貢献した。また、国道23号へのアクセスポイントが増え、災害時の避難・緊急輸送経路のルート選択肢が増え、災害時において重要な避難経路が確保された。</p>
指標4	自然災害に対する防災体制の市民満足度	%	58.3	80.0	74.6	確定 見込み	● △	あり なし	● ●	—	H 年月	—	<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	<p>平成27年度以降、指標としていたアンケートが実施されないことになり、フォローアップができないため、その他の数値指標1を追加して評価を行った。</p>
指標5						確定 見込み	● ○	あり なし	● ●	—	H 年月	—	<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	自主防災訓練の参加人数	人	1,693	/	/	確定 見込み	/	/	/	2,823	H28年11月	/	<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	<p>指標4の代替として自主防災訓練の参加人数を計測したところ、従前値(H22)に対して、計測値(H27)は約4割増加しており、市民の防災意識の高揚が見られ、防災に対する市民満足度の向上にも貢献している。</p>
その他の数値指標2			/	/	/	確定 見込み	/	/	/	—	H 年月	—	<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/	/	—	H 年月	—	<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> 成果を持続させるために 行う方策 	防災施設を活用した防災訓練の実施など持続的な取り組み	・桑名地区の自治会による防災施設を活用した自主防災訓練を毎年実施している。	・平成27年度は、実施回数9回、参加総数は2,823人と前年度よりも大きく増加し、取り組みの成果が挙がっている。	・市民の防災意識の向上、防災施設の有効な活用においては、防災訓練等の継続的に実施が必要である。
	緊急輸送路・避難経路等の点検・整備	・緊急輸送路である国道23号より、国道1号線と結び避難経路となる江場安永線の整備を実施し、道路パトロール等で日常的な点検を行っている。	・江場安永線の整備により、国道1号・国道23号、県道福島城南線の慢性的な洪滞が緩和され、緊急時の円滑な交通流の確保に貢献している。	・避難経路に関する市民への情報提供、他の避難経路等の整備及び点検などを行い、避難経路の選択肢を拡げることが必要である。
改善策 <ul style="list-style-type: none"> まちづくりの目標を達成するための改善策 残された課題・新たな課題への対応策 その他 必要な改善策 	桑名駅周辺の交通結節機能の強化	・桑名駅自由通路整備等の設計業務、東西駅前広場の機能検討などを実施している。	・東西駅前広場の交通機能に関して、バス、タクシー等の交通事業者との意見を踏まえた計画策定を実施することができた。	・関係機関との協議調整をさらに進め、事業化に向けてさらに検討を進める。
	駅周辺への都市機能の集約化	・有識者や関係団体の代表者による「桑名駅周辺土地利用構想策定懇話会」を開催し、駅周辺における土地利用構想の検討を行った。	・桑名駅周辺の土地利用の方針を検討し、都市機能の集積、機能分担など、土地利用構想を策定することができた。	・懇話会で検討した土地利用構想のパブリックコメントを実施し、今後も継続的に駅周辺の土地利用について検討を進める必要がある。
	駅周辺のバリアフリーの強化	・桑名駅自由通路の設計、東西駅前広場の検討において、利用者の利便性、安全性を考慮したバリアフリー対策の検討を行っている。	・桑名駅西口駅前広場について、高齢者や子ども等の交通弱者に配慮し、駅利用者が安全快適に移動できるような整備計画の策定を行った。	・東西駅前広場整備の整備段階においても、交通弱者が安全快適に移動できるような動線計画、施設配置を検討する必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項